

シリーズ——⑨
わが町再発見

餅つき

収穫の喜びと天の恵みに感謝する、宮宿小学校の収穫感謝祭が十一月二十七日、にぎやかに行われました。宮小独特の餅つき音頭に合わせて、五年生が千本杵を使って力強く餅をつきあげました。



広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

12

1993
DEC.
月号
NO.445

だれもが通る道だから

高齢者福祉を考える

健康長寿は、だれでもが望むことです。でも、だれもが一度は通らなければならない高齢化。今月は、寝たきり老人の介護などを中心に、高齢者の在宅福祉について考えてみます。

町の高齢化率は 24.1%

ほぼ四人に一人が六十五歳以上の中高齢者。朝日町の高齢化現象は、急激に進行しています。

平成五年四月現在の老人人口比率（総人口に占める六十五歳以上の人口割合）は、二四・一%と県内第二位になっています。人生八十年時代と言われる現在において、介護を必要とする寝たきり老人やひとり暮らし老人、老人だけの世帯等の増加が見込まれます。

高齢化率の高い朝日町において、お年寄りが安心して暮らせて、保健福祉サービスの現状を踏まえ、

る町づくり、老人福祉の充実が町の大きな緊急の課題となっています。

では今年「ふれあいの里対策室」を役場住民課内に設置しました。これは、平成七年度にデイサービス施設を併設した特別養護老人ホームの開所に向け、準備を行なうための専門スタッフです。

この施設は、多くの町民の方が待ち望んでいるもので、施設におけるケア（手当）や現在在宅介護をしている方の支援施設として大きな期待が寄せられています。

さらに、住民に最も身近な町

ス体制を計画的に整備するため「朝日町老人保健福祉計画」を策定中です。今年度中には完成する予定となっています。また、これまで老人ホーム等への入所の判定については、県で決定されていましたが、今年度からその決定権が県から町村に移されました。これら一連の動きは、在宅福祉や施設サービスを町村において一元的に行なうことを目指しているものです。

より身近かな行政単位で、より適切な福祉サービスを受けられるようになることが大きなねらいといえます。

現在宅介護の実技指導を受ける婦人のみなさん
現在介護中の方も多く参加している（町社会福祉協会）

福祉のことば

特別養護老人ホーム

65歳以上の方で体や精神に障害があり、自宅での介護が困難な方を入所させる施設。

デイサービス

身体の弱いお年寄りや寝たきりの方をデイサービスセンターに運び、入浴、食事、日常動作の訓練を行うこと。

ケア付き住宅

一人暮らしのお年寄り、老人世帯、身体に障害のある方が安心して暮らせる設備と構造になっており、緊急時には介護サービスも受けられる住宅。

リハビリテーションセンター

身体に障害をもつ方の機能回復訓練から、社会復帰まで一貫して援助を行う施設。

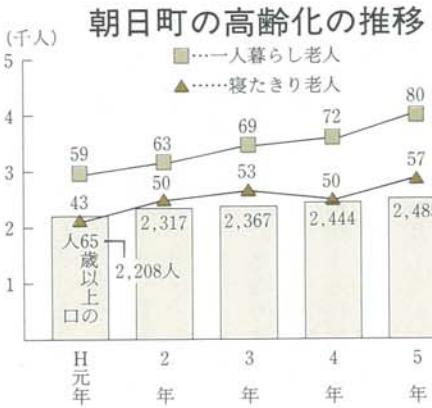


在宅介護は

「互助」と「公助」で

現在、町には寝たきり老人の方が五十七名、痴呆性老人の方が十七名、特別養護老人ホーム入所者は三十四名、養護老人ホーム入所者は十八名、施設入所の待機者が十一名となっています。これら寝たきりなどのお年寄りをかかえた家族にとって、実際介護に当たつた方でなければ分からぬ計り知れない苦労があります。

多くは嫁が姑を見るのは当然という考え方根強いようですが、介護する立場の方はもちろん、介護してもらう方にとって、相手の身になつての知恵も必要と



なつてくるでしょう。世話をしてくれる人への思いやり、気配りを忘れず、また家族皆で支えることも忘れてはなりません。しかし、ここで大切なことは、「在宅介護」イコール「なんでも家庭だけの介護」という考え方でないということです。

地域内で困つたときは、お互いに助け合う「互助の精神」と、町や県が行う行政サービスとしての「公助」なくして在宅介護の継続は難しいということです。

ボランティアグループ 「ふれあいの会」を結成しました。



海野 つゑさん
(西船渡)

大井みちよさん
(常盤)

わたしたち2人は、平成2年に行われた寒河江西村山の介護教室に参加しました。その時は2人も在宅介護の真っ最中で、少しでも介護の仕方を習いたいという気持ちで参加したのです。その教室に参加した人達が「四葉会」というボランティアグループを平成3年に結成し、西村山管内の特別養護老人ホームで活動しています。

施設のお手伝いを通じて、園に入所しているお年寄りの方と接する訳ですが、家庭に帰って自分のおじいちゃんやおばあちゃんの世話をすることは、不思議と優しい気持ちになって介護できるようになります。自分でも不思議なくらい自然に優しく接することができるのです。

今、40歳代の婦人の方をみると、実際に介護をしている方、間もなくしなければならない方など在宅介護は切実な問題になっています。そこで、介護の仕方やお互い励ましあって介護を続けて行けるようなネットワークを作る必要性を感じ、昨年町で行われた介護教室に参加した方に呼びかけ、9月27日に14名でボランティアサークル「ふれあいの会」を結成しました。

まだ発足したばかりなので、施設での入浴のお手伝いや掃除などを体験しています。町民の皆さんにご理解いただき、できるだけ多くの皆さんに参加していただきたいと考えています。

福祉サービス利用 年々増える

◇老人ホームヘルパーの派遣事業

五名のホームヘルパーが各家



だけ出さずに皆が手を差し伸べることができます。

そうすることで、在宅で介護する人にとってはとても大きな力になるのです。地域で支え合つてこそ、豊かな生きがいのある老後を過ごせるということになります。

また、期限のない介護を上手に続けていくためには、公的サービスの利用も大切です。

ここで、在宅サービスの代表的なものをあげてみたいと思います。

庭を訪問し、寝たきりのお年寄りやひとり暮らし等のお年寄りの世話をします。入浴やおむつ交換などの身体介護や掃除、買い物などの家事介護などのほかに、地域から孤立しがちなお年寄りの相談相手にもなります。

平成四年度から一部有料化になりましたが、利用する世帯の増加とサービスの回数も増えています。気軽に利用していただきたい制度です。

◇老人短期入所（ショートステイ）運営事業

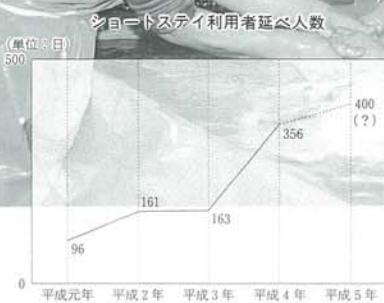
寝たきりのお年寄りのいる世帯で一時的に介護が困難になります。たとき特別養護老人ホーム大寿荘（大江町）、白光園（白鷹町）、ケアハイツ西川（西川町）に一定の利用料金で短期間入所できるシステムです。町で発行する利用券で簡単に利用できるようになっています。

これら二つのサービスまたは、年々急激な伸びを示しています。これらのサービスまたは、それ以外の公的福祉サービスについて、詳しく知りたい場合は

最寄りの児童民生委員さんにご相談ください。三十五名の委員さんは、地域の福祉向上のため活動いただいているみなさんで、福祉に関する悩みや困ったことについて気軽に相談に応じていて

保・医・福の一体となつた体制づくり

日本では、よく寝たきりでなく寝かせきりだと言われています。寝たきりでない自立を目指すリハビリテーションセンターで、リハビリとケアが同時に受けられれば理想的です。自立した生活を営めるようになればその施設から退所し、障害の程度に応じ①自宅で暮らし、施設を利用し②リハビリを受ける。③ケア付きの住宅に住む。または、④特別養護老人ホームに移るなど本人と家族が決められるシステムが必要になる時代です。それには、まずリハビリの施設やケア付き住宅の整備が是非とも必要になってしまいます。



大江町の大寿荘では在宅の方の入浴サービスが受けられます



室内で気軽にできる軽スポーツで健康づくり（町高齢者福祉大会）

日本では、よく寝たきりでなく寝かせきりだと言われています。寝たきりでない自立を目指すリハビリテーションセンターで、リハビリとケアが同時に受けられれば理想的です。自立した生活を営めるようになればその施設から退所し、障害の程度に応じ①自宅で暮らし、施設を利用し②リハビリを受ける。③ケア付きの住宅に住む。または、④特別養護老人ホームに移るなど本人と家族が決められるシステムが必要になる時代です。それには、まずリハビリの施設やケア付き住宅の整備が是非とも必要になってしまいます。

現在、町で行われているリハビリとしては、町立朝日病院の作業療法士による訪問リハビリがあります。さらに、看護婦による訪問看護も民間の医院と町立病院で行われています。これら二つは、患者さんの担当医師の指示に基づき行われているものです。

今やお年寄りの生きがいや医療、介護への要望が多種多様になる中、安心して老後を過ごすためには、保健、医療、福祉サービスの連携がなお一層大切になっています。



町立朝日病院のリハビリテーションでは通院によるリハビリも受けられます

“心”を大切にした

福祉



欧米人は、日本のお年寄りの同居志向の強さに驚くといわれています。彼らの社会では、離れて暮らしながら交流し合う親子関係が確立されているからです。日本では、長い間同居を中心とした家族関係が築かれてきました。ひとつ屋根の下に、一緒に住むからこそ家族であると

いう意識が強かつたのです。

しかし、高度経済成長とともに核家族化が一気に進みました。あまりにも急激に核家族化が進んだため、離れて暮らす親子がどう付き合つていいのか、互いに戸惑っているという現状ではないでしょうか。戸惑いは、やがて無関心につながり、ともすれば、「病院にほうりっぱなし」「金を与えるべきなし」という結果になりがちです。

これらの老人福祉を考えるとき、忘れてならないことがあります。それは「心」の問題です。経済中心の豊かさから心の豊かさへといわれる今日の社会にあって、人間性の尊重、生きがい、あたたかいふれあいというような、心の問題は非常に大切なことになってきていました。

いくつになっても誕生日が楽しみ。一つひとつ歳を重ねるごとに歳の数だけ幸せが深まっていく。世代を超えた豊かな毎日。

お年寄りが安心して暮らせる町づくりに向けて、町民と町が一体となり真剣に取り組んで行かなければならぬ時期に来ているのでないでしようか。

在宅介護をお伝えします。

町会社福祉協議会
ホームヘルパー

(左から)
海野 京子さん
村山 美恵さん
富樫富美代さん
長岡位久子さん



わたしたちヘルパーは現在5人（うち1人は産休）で23名の在宅で暮らす方の介護に当たっています。対象になる方は65歳以上の方と身体に障害のある方です。介護者の内訳は、1人暮らし老人が9名、寝たきり8名、身体障害者3名、その他3名となっています。

わたしたちの仕事の内容は、体を拭いたり、洗髪やおむつを交換したりする身体介護と、家庭の掃除や洗濯、買い物などを行う家事介護。さらに孤独になりがちなお年寄りの方の話相手や相談にのったりする相談・指導の三つになっています。

わたしたちヘルパーの制度が知られるようになったことや、介護する家族の意識が変化しているからでしょうか、最近は利用件数が増えています。どうぞご利用下さい。

欧米人は、日本のお年寄りの同居志向の強さに驚くといわれています。彼らの社会では、離れて暮らしながら交流し合う親子関係が確立されているからです。日本では、長い間同居を中心とした家族関係が築かれてきました。ひとつ屋根の下に、一緒に住むからこそ家族であると

いう意識が強かつたのです。

しかし、高度経済成長とともに核家族化が進んだため、離れて暮らす親子がどう付き合つていいのか、互いに戸惑っているという現状ではないでしょうか。戸惑いは、やがて無関心につながり、ともすれば、「病院にほうりっぱなし」「金を与えるべきなし」という結果になりがちです。

これらの老人福祉を考えるとき、忘れてならないことがあります。それは「心」の問題です。経済中心の豊かさから心の豊かさへといわれる今日の社会にあって、人間性の尊重、生きがい、あたたかいふれあいというような、心の問題は非常に大切なことになってきていました。

いくつになっても誕生日が楽しみ。一つひとつ歳を重ねるごとに歳の数だけ幸せが深まっていく。世代を超えた豊かな毎日。

お年寄りが安心して暮らせる町づくりに向けて、町民と町が一体となり真剣に取り組んで行かなければならぬ時期に来ているのでないでしようか。

訪問リハビリをご利用下さい。

町立朝日病院
作業療法士
清野 敏秀さん



町立朝日病院では、今年の6月から訪問リハビリを行っています。朝日病院の患者さんで、退院した後のアフターケアということで始められたものです。

現在は3人の方を週一回訪問し、身体の機能回復訓練はもちろん、精神的な安定が得られるような指導も行っています。さらに、家族への患者に対する運動のさせ方や、食器や住宅へのアドバイスなど、患者さんが自宅で楽しく生きがいをもって過ごすためにはどうすれば良いのかという総合的な助言をしています。

現在は病院の患者さんだけへ訪問リハビリですが、開業医の先生から要請があれば訪問できるシステムになっています。風せんや簡単なゲームなどもとり入れ、生きていることが楽しいと思えるリハビリをめざしています。どうぞご利用下さい。

平成5年度自治功労者等表彰式 町づくりの功労者を表彰



喜びの受賞者のみなさん

●白田光市氏（大谷三・63歳）
昭和三十八年大谷葉たばこ生産組合長に就任以来、昭和六十二年朝日町葉たばこ生産組合設立と同時に組合長に就任され、良

●鈴木貞一郎氏（小原・57歳）
永年にわたり山形朝日農協りんご組合長をはじめ要職を歴任。

●渡辺昭氏（能中・60歳）
昭和六十一年より三中土地改良区理事、平成二年から同理事長に就任。平成五年の町内土地改良区合併に尽力されたなど土地改良区の発展に寄与されました。

●故長岡五郎八氏（大谷五）
永年にわたり北部地区ゲートボーラー愛好会長、町ゲートボール副会長、北部地区長寿クラブ会長などを歴任。高齢者の福祉向上、生きがいの高揚に寄与されました。

●藤原光雄氏（本町・66歳）
昭和三十二年から三十六年の長きにわたり、大江地区交通安全協会理事として活躍。またその間、宮宿支部長、同協会副会長を歴任され交通安全思想の高揚に寄与されました。

●阿部宗一郎氏（常盤・70歳）
昭和五十七年西五百川小学校、

●教育文化功労者
内十二名、県内二名、県外三名の方に、分譲地の説明と申込みを受け付けていました。

現在、山形朝日農協本所東側に造成中の中郷住宅団地の分譲抽選会が十一月十九日、役場会議室で行われました。

同団地は、町の定住対策の一環として、西部地区土地開発公社（三澤武男理事長）が十二区画四千七百九十九十平方メートルを造成分譲するものです。一区画が約四〇〇平方メートルで、平方メートル当たり一万三千五百円という格安な分譲単価を設定し、申し込み予約を受け付けていました。

当日は、まずははじめに予約申し込みをされた十七名（町内十二名、県内二名、県外三名）の方に、分譲地の説明と

今年度の自治功労者ら町づくりに尽力いただいたみなさんの表彰式が十一月二十一日、中央公民館で行われました。受賞された方は次のみなさんです。おめでとうございました。

自治功労表彰

中郷住宅団地完売 12区画に17人の申し込み



抽選機を回す申し込み者



完成間近な中郷住宅団地

平成5年度「志藤六郎村おこし基金」交付先

交付先	内 容	交付決定額
立木区	「ヤマメの里」づくりのため看板設置や学習会、飼育槽の整備	652,000円
栗木沢区	「松茸の里」づくりのため区有林の整備	376,000
能中区	一本松公園の整備	422,000
新宿区	薬師如来立像の十二神将の修理保存	750,000
朝日町生態農法研究会	山菜の畑地化や地鶏の放牧飼育で特産品の研究開発	200,000
奈良崎美雄(大滝)	仲間でプラムコットを特産化するための研究開発	200,000
安藤 竜二(大谷一)	蜜ロウを使ったハニーネクレヨンの研究開発	200,000

村の誇りづくり推進事業
特産品の開発推進事業

ある志藤六郎さんからいただいた一億円を基に設けられた「志藤六郎村おこし基金」の今年度の交付先が決まりました。

この村おこし基金は、一億円から生まれる益金を村のシンボル作りや特産品の開発などに頑張っている団体や個人に補助して、町の活性化に役立てようとするものです。

今年度は十四の個人、団体から申請があり、同基金運営委員会(登坂盛高会長以下七名の委員)で慎重に審査した結果、上記の五団体と二個人に決定しました。

「志藤六郎基金」は 村おこしと特産品開発に

- 花山昭雄氏(杉山・70歳)
昭和五十八年以来、杉山大道地内に自生する水芭蕉の保護のため、雑草木の刈り払いを行い環境整備に尽くされています。
- 朝日町理容組合
明鏡荘開荘以来毎月一回入荘者

昭和五十九年に立木小学校に多額の宗生文庫創設資金を寄付されています。また、教育芸術関係の要職も歴任され町の教育文化、芸術の発展に寄与されました。

善行褒賞

- 海野ちゑの氏(能中・61歳)
昭和六十一年にご主人が病に倒れ以来、農作業のかたわら昼夜を分かたず献身的に介護されています。
- 渡辺ふみ子氏(元町・47歳)
農作業のかたわら、寝起きとなつた義母を永年にわたり、昼夜を分かたず献身的に介護されています。

- 鶴見博俊氏(栗木沢・59歳)
永年にわたり、北部地区素人演芸会や区公民館事業に、音響機材を提供され、自らその操作に当たられています。
- 佐竹清次氏(下芦沢・82歳)

- 鈴木幸次郎氏(常盤・61歳)
三十九年にわたり菓子製造小売業としてその職に精励され、技術向上に努められています。
- 阿部小七氏(夏草・86歳)

- 阿部三太郎氏(西原・73歳)
五十五年の長きにわたり、竹細工の卓越した技能で後継者の指導や技術の向上に努められています。
- 阿部三太郎氏(西原・73歳)
五十五年の長きにわたり、竹細工の卓越した技能で後継者の指導や技術の向上に努められています。

技能者表彰

昭和五十九年に立木小学校に多額の宗生文庫創設資金を寄付されています。また、教育芸術関係の要職も歴任され町の教育文化、芸術の発展に寄与されました。

のため、定休日を返上して低廉な価格で理容奉仕活動を続けられています。

● 村山勇吉氏(本町・69歳)
平成四年六月山菜採りで落石にあり、身動きのとれない男性を救出。その後の入院、通院についてもいろいろお世話をしてくれました。

二十数年間にわたり森林組合の労務班長として労務班員の確保に当たると共に、植林、造林事業を積極的に推進されました。

● 菅井昭四郎氏(宿・50歳)
二十五年にわたり自立技師として技術の研究と自己研鑽に励み製材製品の品質向上に貢献されています。

ロータリー除雪車 購入

本格的冬将軍の到来を前に、十一月十日ロータリー除雪車が新たに購入されました。





納豆もちとくるみもちをおなか一杯食べました。
(11月27日の収穫感謝祭)

田植え“から”もちつき“まで”

宮宿小“米”づくり体験学習

今年は、夏の低温や日照不足などで山間地の水稻には大きな被害が発生しました。そんな中、今年で五年目になる宮宿小学校（高砂正己校長・児童数二二四名）の五年生による米作り体験学習が熊谷信弘さん（前田沢）から借りている実習田で行われました。田植え、除草、稻刈りと一連の米作りを体験した児童たちは、働くことの大切さと自然の不思議さを感じ取ったようです。



もちつき音頭に合わせて杵をふるう5年生たち。



豊年太鼓を威勢よくたたき
収穫を喜びました。
(収穫感謝祭)



裸足になつて田んぼに入るのは、ほとんどの子供
にとつて初めての体験
(5月28日の田植え)



どろんこになりながらの稻刈り (10月13日の稻刈り)



田んぼの先生は今井正仁先生(左・新宿)と鈴木俊昭
先生(右・助ノ巻) 機械持参で指導下さいました。



雑草はどうの中へ埋めてしまうことを初めて
知りました。 (6月22日の除草)



脱穀後のワラは手渡し作業で (11月8日の脱穀)

「納豆もちのおかわりはだいじょうぶ
かな」心配にのぞきこむ児童たち。
家ではあまり食べない子もこの日だけ
は特別。(収穫祭)

■連絡先

役場企画情報課
企画広報係へ
☎67-2111 (内222)



熱弁をふるう屋山太郎氏

当曰は、政治評論家の屋山太郎氏を講師に迎え「いま、世界で、日本で何が起きているのか」と題し、激動する世界情勢や国内政治状況等について詳しく分かりやすく講演されました。

はじめに屋山氏は、現在交渉中の新多角的貿易交渉（ウルグアイ・ラウンド）について「あらゆる物資のルールを決めて貿易を行おうとするもので、農業だ

けを例外とすることはできない。特に、世界的にECを始め各地域でブロック経済体制に移行しており、日本も妥協せざるを得ないだろう」と分析しました。

特に、米輸入自由化問題につ

いては、「六年間の関税化猶予期間を設け、国内消費の四～八%のミニマム・アクセス（最低輸入量）の受け入れに落ち着くだろう。その六年間で、いかに米作りを活性化するか」ということが問題である。急激な後継者不足の現状から考えて、国内で米の自給が可能なのか危惧される」と指摘しました。

また、国内の政治情勢

については「政治改革法

案が成立し、小選挙区制

になれば政治家の質が高

められ、政治は確実に変

わるだろう。さらに、地

方が発展するためには人

材の育成と地方分権を進めなければならぬ」と結ばれました。

地域づくりの拠点として期待される公民館



地域づくりの拠点として期待される公民館

石田渕公民館が完成

この度、太郎第三区の石田渕集落に太郎第三区石田渕公民館が完成し、十二月十日落成式が行われました。

同公民館は、水力発電施設周辺地域交付事業の補助金を受け、事業費一千六百十二万円で完成。床面積一〇一・八四平方メートルの木造平屋建となっています。当日の落成式には、十六世帯の石田渕区民や町関係者、工事関係者ら約五十名が出席し完成を祝いました。



朝日町地域開発講演会

「いま、世界で、日本で何が起きているのか」

水本／
高橋真由美さん
(水本小4年)
おじいちゃん
高橋由太郎さん
(75歳)
おばあちゃん
す江さん
(73歳)



おじいちゃん、おばあちゃん、これからも元気で、長生きして下さい。
真由美

おばあちゃんは、朝早く起きて畑に行きます。雨の日も寒い日も、天候にかまわず働いています。おばあちゃんの得意な料理は、きのこごはんです。とっても大好きです。
おじいちゃん、おばあちゃん、これからも元気で、長生きして下さい。

隣のリソグ家族

堀ひろき (60) FUJIO



町民の

このひろばはみなさん
のページです。話題やご
意見、作品など、ご自由
にお寄せ下さい。

ひとことトーク

全国大会の 価値ある一勝



鈴木 秀治さん
(小原・31歳)

全国青年大会野球大会に監督として出場

町内のナイター野球大会などでは、敵味方に別れるものたちですが、一つに集まり何かできないかと思ったのが青年大会への参加でした。

県大会五回目にして、今年初めて全国大会に出場することができます。

東京都の玉川河川敷総合公園で十一月十四日に行われた全国大会では、全員一丸となって戦いました。一回戦は香川県に八対二で圧勝。続く二回戦は兵庫県と対戦し善戦及ばず七対〇で敗れました。

しかし、全国大会で一勝を挙げたことに誇りを持ち、より高い目標に向かつて再び挑戦したいと思っています。そして、これからも野球という魅力にどっぷり浸りたいと思っています。

四夫は、大正四年に水口の長岡善次郎氏の養子となる。彼が五歳の秋のことであつた。明治四十四年三月生まれの興生来、素直な性格であつた彼は、この土地にも馴れ、近くの野山で草笛を作つて吹いたり、間もなくハーモニカやフルートを友として遊ぶようになつた。

昭和七年、現役兵として入隊したのを手はじめに、満州製鉄要員となり終戦（昭和二十年八月）まで勤務。その後、東京のいすゞ自動車に勤務するが、昭和二十六年冬ふるさとに帰る。

その春に西五百川村直営診療所雇となり、やがて朝日町役場に勤務し、彼の持前の誠実さで町行政に尽力した。

昭和三十九年四月、新設された土木水道課長に就任、町の広域水道業務に取りくむことになる。さらに、石須部橋、大平橋の建設にも懸命の取りくみがつけられた。退職後も多方面の役職に就き指導力を發揮した。

彼の真価は音楽の世界でも発揮されていた。幼いときの草笛へのあこがれは、やがて、サキソフォーン奏者となり、ニューエコーズ（バンド）の一員として活躍することになる。朝日町芸術文化協議会では副会長として文化活動の推進につくした。

平成二年体調をくずし、芸術文化祭にも参加できないまま、同年十一月十九日夜明け前に生涯を閉じる。文・杉ひさし

人国記 44

長岡與四夫 —広く真価を發揮した人—



清水湧く水口の地から東南を見渡すと、広い空をくぎつて白鷹山地の連山が眼前にせまつてくる。上郷ダムに近い河岸段丘回戻は兵庫県と対戦し善戦及ばず七対〇で敗れました。

見渡すと、広い空をくぎつて白鷹山地の連山が眼前にせまつてくる。上郷ダムに近い河岸段丘は、この土地にも馴れ、近くの野山で草笛を作つて吹いたり、間もなくハーモニカやフルートを友として遊ぶようになつた。

月

まで勤務。その後、東京のいすゞ自動車に勤務するが、昭和二十六年冬ふるさとに帰る。

その春に西五百川村直営診療所雇となり、やがて朝日町役場に勤務し、彼の持前の誠実さで町行政に尽力した。

特別インタビュー

高橋由紀さん



プロフィール

昭和34年群馬県伊勢崎市生まれ。埼玉大学修士課程卒（文化人類学専攻）。お茶の水女子大学女性文化研究センター職員。現在は同研究所研究生として活躍。

朝日町を2年半にわたり調査研究

「欠点を嘆くより長所を認め合い伸ばす姿勢が大切。」

—朝日町で平成三年から調査を始めて、今月で一応終了したとお聞きしましたが。

わたしらちは、お茶の水女子

女性・生活」をテーマとして、平成三年の四月から朝日町にお世話をになりました。

原以下、五人の女性研究者がひろ子（教授）を中心に、「地域・

社会政策学、文化人類学、開発経済学、科学社会学、家族社会

学の分野について各人がそれぞれのテーマに沿って調査研究をさせていただいています。

わたしは、子どもを「生み育てる」とに対する意識の変化と地域社会の関連について調査研究を行っています。

—なぜ朝日町を研究の場に選ばれたのですか。

東北の数ヶ所を選定し予備調査を行いました。朝日町は人口規模も一万人程度で調査しやすいこと、東京から日帰り可能であること。さらに、若い人達を中心、F21の人材養成事業やエコミュージアム構想など活発に町づくりが展開されているということが決定要因となりました。

ー町の第一印象は

一番強烈に感じたことは、個性的な方が多いということです。若い人もお年寄りも自分なりの考え方を持ち、町の活性化に真剣に取り組んでいらっしゃるということを感じました。

それからこちらにくる前は、山形の農山村というと、豪雪で暗いというイメージがあつたのですが、実際来てみると雪は少ないし、「りんご温泉」や「朝日自然観」などがあり、町の雰囲気がとても明るく感じられました。

ー朝日町の女性についてはいかがでしよう。

朝日町の女性は実によく働くと思います。家庭ではもちろん、職業人として、地域人としてすばらしいと思います。芸術文化祭や婦人祭などの活動には目を見張るものがあります。そう

富さは外には見られないものだと思います。さらに、りんごに代表される果物やワインなどたくさんあります。そういう町の特徴をアピールするのに少し控えめなように思います。

ー専門の女性についてはいかがでしよう。

朝日町の女性は実によく働くと思います。家庭ではもちろん、職業人として、地域人としてすばらしいと思います。芸術文化祭や婦人祭などの活動には目を見張るものがあります。そう

くの女性を登場させて、活躍の場を与えてほしいと思います。

—今後の朝日町のまちづくりひとつこと。

こちらにお世話をなっているとき、友人を何度も連れて来ました。その時は「りんご温泉」や「朝日自然観」に案内すると、とてもリフレッシュできたといつて喜んで帰ってくれます。ただ二回、三回となるとどこに案内しようかと迷ってしまいます。そんなときに、エコダイヤル（エコミュージアム情報の電話サービス）などの情報提供があればと思いました。町を訪れた際に気軽に電話サービスを受けられるというものです。

ー十二月五日に帰られるということですが。

はい、本調査は一応五日で終了し、群馬のほうにかえつて研究のまとめを行う予定です。でも、平成七年三月までときどき補足調査でお邪魔しますので、その節はよろしくお願ひします。

最後になりましたが、見ず知らずのわたくしたちを温かく迎え、親切にしてくださった皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。これをご縁に朝日町の一応援者として、町のお役に立てればと考えております。



記念碑前は子供たちの絶好の遊び場

元禄元年（一六八八）に、鈴木太右工門、菅井新兵衛両氏の大きな働きにより和合堰（通称・大ぜき）が開通しました。

堰の揚げ口は、送橋川の古檍と送橋の中間地点に当たり、古檍の山側を通り和合集落の上を流れています。その行程は四キロメートル以上にも及び、よくあの時代に開通したものだと感心させられます。その後、菅井喜兵衛家が四代（九〇〇年）に

この堰は、昔も今も水田の用水と防火用水として大切に使われています。毎年、春秋の二回に部落人足で堰の掃除が行われます。春には小原の国道二八七号添いにある和合堰開さく碑前で、先人の遺業をしのびながら、これからも堰を大切に守ることを誓い懇親会が開かれます。

わたり、堰守として大雨の時など骨身を惜しまず働いたと伝えられています。

ふるさとめぐり
(41)

豊かで、ひ、うれしい

小 原

りっぱなお堂ができるぞ!!

さゆり保育園のお地蔵様



「お地蔵様、ぼくたちを守ってね」手を合せる園児たち

「僕たちのお地蔵様のお堂ができるぞ」。これまで、さゆり保育園で雨ざらしのまま祭られていた地蔵様に、父母の会（菅井恒好会長）が中心となり、父兄の労力奉仕でりっぱなお堂が完成しました。

このお地蔵様は、昭和49年の同保育園建設時に、運び込まれた土砂の中にまぎれ込んでいたものです。

「お地蔵様は子供の守り本尊、ここに運ばれたのも何かの縁だったのでしょう。これからも園児たちを見守ってくれることでしょう」と神尾園長は話してくれました。

（鈴木俊昭 広報委員）



産業大賞奨励賞を受賞する阿部組合長

示即売会、特産品や日用雑貨などの販売コーナーなどが所狭しと広げられ、四千人近い買い物客でにぎわいました。

初日の開会式の席上、恒例の

第十四回朝日町産業まつり

冷害や不況で暗くなりがちな雰囲気を拭き払おうと、農業、商業、工業界の総力を結集した一月二十日、二十一日の両日にわたり町民体育館を中心に盛大に行われました。

産業大賞の表彰式が行われ、産業大賞奨励賞に一団体と二個人

が輝きました。また、第十三回

の朝日町りんご品評会の表彰も併せて行されました。しかし、

今年は冷害の影響で毎年行われ

ている良質米高品位安定生産共

励会と餅つき大会が中止となり

ました。

二日目は、演歌歌手の小池茶

子を迎えての歌謡ショーが行わ

れ、集まつた五百人の観衆は演

歌の魅力をたっぷり味わつてい

ました。

新時代へ今転機のとき

- ◆産業大賞奨励賞
- ・最優秀賞／阿部賢一（夏草）
- ・優秀賞／阿部隆藏（夏草）・金賞
- ・安藤竜二（大谷）
- ・成原浩（新宿）
- ◆りんご品評会
- ・最優秀賞／阿部賢一（夏草）
- ・優秀賞／阿部隆藏（夏草）・金賞
- ・一席／志藤寛一（能中）・金賞二
- ・席／橋本栄子（夏草）・金賞三
- ・席／井沢寿一（夏草）・銀賞／渡辺一雄（能中）他九名・銅賞／佐竹守（常盤）他十九名・努力賞／斎藤興治（常盤）他十四名。なお、産業大賞は該当なし。（敬称略）

瞳キーフキーフ心ぐさ・ぐさ、

心を育む大切な遊び

はぐく



「ここ」、三年朝日町で一年間に誕生する赤ちゃんが百人を割りました。今は、少子時代と言われるようになりました。親世代が子供だつた頃と違い豊かな消費社会の中で、ややもすると王子様や王女様ばかりになりかねない状態です。一人の親として、次の世代を担う子供たちに、何を残し、伝えて行けば良いのか子供の遊びを通して考えてみます。

今日、何して遊ぶ

先日、広報紙に音の遊びへの案内が出ていました。子供時代に毎日遊んだ懐かしいものばかり。昔は、ぱつた・ビー玉・コマ回し・おはじき・ちゅうなご・ゴムとび・あやとり・陣とり・カンけり・ちゃんこ・木登り・つり・そり・竹げた等々、書いたら限りがないほど様々な遊び

をしていました。
けれども、わが家の息子たちも含め、こんな物や、場所で遊んでいる姿を見かける事は少なくなります。今の子供たちは何で遊んでいるのでしょうか。息子や友人たちの様子・周囲の親たちの話から見えて来たのは、内ではゲーム器・カード・マンガ本・テレビなど、外ではサッカー・野球・スキー・バスケット・かくれんぼなどです。

室内か、決められた場所で遊ぶ「あぶない」という理由で整地された所でしかのびのびと遊ぶ事ができなくなつたよう思っています。禁止されているのか、川や裏山で泥んこになつている姿も見られなくなりました。晴れた日に狭い部屋の中で、長時間テレビゲームを楽しんでいる子供たちの姿を見ると、「今の世の中だもの」と思いながら「死ね」「あつ死んだ」などと、何のためらいもなく口にする様子を見ていると、悲しくさびしい気持ちになります。

子どもは風の子

「子供は外で遊ぶもんだ」と

言られて育つた者からすると、

今この子供は家中で遊ぶ事が多

いように見えます。

仙台に住んだ折、日曜の校庭

は開放にならず、当町に来て「学

校さ、遊びに行つて来る」と出

かける姿を見て、嬉しくなりま

した。以前に比べて、自由に遊

べる場所が少なくなりました。

「あぶない」という理由で整地

された所でしかのびのびと遊ぶ

事ができなくなつたよう思

っています。禁止されているのか、

川や裏山で泥んこになつている

姿も見られなくなりました。

この世の中だもの」と思いながら

「死ね」「あつ死んだ」などと、

何のためらいもなく口にする様

子を見ていると、悲しくさびし

い気持ちになります。

ぶ事が多くなりました。

「今の子供よ。見ると忙し

いし、遊ぶひまもないみたいだ

「ファミコン好きですよ。どこお

もしやえのが、わがんね」など

の話もありました。

年末は交通事故にご注意下さい。

西船渡高齢者
交通安全教室開催



「道路の横断は、斜め横断はしない」「夜間の外出のときは、車の運転手からよく見える反射材を着用しましょう」。

十一月二十九日、西船渡公民館で西船渡長寿クラブの交通安全教室が開かれました。当日は二十名の会員のみなさんが出席。常盤駐在所の漆山巡回部長と、町の鈴木交通安全専門指導員から最近の高齢者の事故の説明や冬期間における事故防止等について講話が行われました。

町では、平成三年度から県の補助を受け交通安全専門指導員を設置しています。主に交通安全の実技指導や啓蒙活動を保育園、小学校、自治公民館などで展開しています。自治公民館からの要請があれば、出向いて指導することにしていますので気軽にご利用ください。

「外に出て、別の遊びしたら」と、ついゲームを中断させてしまったのは私だけでしょうか。子供は遊びの天才です。楽しいもの、おもしろいものをすぐに見つけだします。今は外よりも家中におもしろいものがいっぱい存在するのでしょうか。

体験から得る

宝物

「今の子供て、ぶきつちょうだ」「んだ、りんごの皮もむがんにえす、鉛筆も、ろくにけずらんにえ」

「今の子供も同様です。これは親世代に責任があるように思いますが、例え鉛筆にしても、ほとんどの家に鉛筆けずりがあり、毎日これで学校に

手を切った時の痛さ、凶器にもなるため、きちんと始末する事など、様々な大切な事を伝えないでしまったかもしません。

これと同様に、木登りに失敗して手足をすりむいたり、包丁で指を切り、ふき出る血を自分で止めたり、ころんになりむけば血止め草の葉を見つけて処置した事を思い出します。痛い思いをしながら、様々な知恵を身につけて、多少の傷は一人で治せる事を覚えて行つたものです。

けんかを忘れた

子供たち

「今の子供よ、取つ組みあいのけんかなど、すねずなえ」という話を耳にする事があります。我が家を見ても、兄弟げんかは、毎日楽しそうにやつております。しかし、友だちとのけんかは見られず、いつも仲よいでぶつかれないのか、それとも本音です。大人なのか、どちらか

明日を託す

子供たちへ

昔の遊びには子供たちの上下関係があった

(教育広報委員会 小林秀子)



出かけて行きます。小刀で子や親がけずつている家庭は少ないと思います。昔は筆箱の必需品だった小刀は、文具店でも搜さなければ姿を見る事もできなくなりました。

小刀一本で様々な遊びの道具を作り出した技や、まちがえて手を切った時の痛さ、凶器にもなるため、きちんと始末する事など、様々な大切な事を伝えないでしまったかもしません。

「昔のおれだの頃はよ。けんかして泣いだら終りよ。そこでやめだなよ。今、少し違う気がする」けんかにもルールがあるのです。昔、子供は縦社会で遊ぶ事が多かつたものです。

心配です。「〇〇ちゃんとな二度と遊ばねがら」と言つておきながら、三日すると元の仲よしにもどつてしまうのです。

朝日の若人

大活躍

全国青年大会

度と遊ばねがら」と言つておきたいと思います。昔は筆箱の必需品だった小刀は、文具店でも搜さなければ姿を見る事もできなくなりました。

小刀一本で様々な遊びの道具を作り出した技や、まちがえて手を切った時の痛さ、凶器にもなるため、きちんと始末する事など、様々な大切な事を伝えないでしまったかもしません。

「昔のおれだの頃はよ。けんかして泣いだら終りよ。そこでやめだなよ。今、少し違う気がする」けんかにもルールがあるのです。昔、子供は縦社会で遊ぶ事が多かつたものです。

多くあります。多くしたのも多いのではないかでしょうか。遊びの面でも、安全(けがをしないように)や、便利、手軽さだけ考えず、不便や、多少の危険な事の中に大切な思いや技が隠されていると思います。

豊かな時代の今、得たものも多くのではないでしょうか。

思い出出す歌つて、ファミコンのテーマ曲かもねー先日、友人と話をしたばかりですが、ちょっとさびしい気がします。

東京の国立競技場などを会場に繰り広げられました。

朝日町からは、県大会を勝ち抜いた野球と、陸上の大竹史之さんと早坂健一さんが出場。

野球では香川県を破り全国初勝利をもぎ取つたり、大竹さんが砲丸投げで五位入賞を果たすなど大活躍しました。



全国大会初の一勝をあげた野球チーム



●常盤／佐竹 健さん
千恵さん

さややか
新婦さん

町内の金融関係の人たちで、年に一回開催するバレー・ボーラー大会がお二人の馴れ初め。

2年間の交際期間を経て、10月にめでたく結婚されました。

家庭では、お互い何と呼びあうのかという質問に「“千恵”“健くん”と呼びあいます」と少し顔を赤くし話す健さん。こんな健さんの優しさに、千恵さんはひかれたのでしょうか。

これから築く家庭については、「これまで同様、友達が大勢遊びに来てくれる家庭をつくりたい」と話すお二人です。おしあわせに!!

人口と世帯数

●平成5年11月30日現在

人口	10,253(減6)
男女	5,092(増1)
世帯数	5,161(減7)
() 内前月比	2,532(増1)

「ごみ減量ぼくの家でもコンボ
スト」 菊地美起広（大谷小）
「便利でも考え方違う使い捨て」
長岡由佳（西五百川小）

こせきのまど



区名	西原	出生児氏名	阿部航大	父名	正治
大谷五	長岡	智華	龍也	吉大	治
大暮山	小松	和幸	心	重則	明
助ノ巻	中山町	西町	山形市	中山町	(婚姻届)
福島市	大谷裕子	大谷三	舟川通	大谷二	大谷五
菅野早人	西町	舟渡	常盤	向	常盤
大暮山	山形市	大谷	沼川	大谷	大谷五
布施和幸	中山町	大谷	大谷	大谷	大谷五
阿部真司	西町	舟	舟	舟	舟
♡ 齋藤由紀子	山形市	大谷	大谷	大谷	大谷

おしあわせに

(婚姻届)



(出生届)

あいやかに

(死亡届)

やあらかに

・町出身の教員で組織する朝日会（遠藤清蔵会長）より五万円

（助朝日町育英会へ寄付いたしました。）

「ぼくたちも
ごみ減量標語入賞

日本の高齢化のスピードは、諸外国に比べて類を見ないほど早く、二〇二〇年には四人に一人が六十五歳以上となると予想されています。人生八十年の現在、介護を必要とする高齢者の急激な増加が見込まれます。朝日町の高齢化は、それを先取りする形で進んでいます。

今月の特集は、町のこれから八校から五百二十八点が寄せられ、十点が最優秀賞に入りました。町内からは次の三点が最優秀賞に輝きました。

「ちょっとしたあなたの工夫でごみは減る」

「ごみ減量ぼくの家でもコンボ
スト」 菊地美起広（大谷小）
「便利でも考え方違う使い捨て」
長岡由佳（西五百川小）

「ごみは減る」

菅井智康（和合小）

春 夏 秋 冬
編集後記

ものとして「ひと、もの、かね」と言われます。来年度建設予定の特別養護老人ホームはぜひひと必要です。しかし、いくら立派な施設をつくってもひとがいなければ福祉は成り立ちません。また、一朝一夕にできないのがこのマンパワーの養成です。介護教室の受講者が、自主的につくられたボランティアサークル「ふれあいの会」の意味は大きいように思います。（K）

